



Religions for Peace India 

ベント・ネヴェス・ロドリゲス神父

インド ウッタール・プラデーシュ州の
恵まれない子供たちに確かな今と約束
された未来を提供する



Religions for Peace

50 YEARS

インドには子どもを保護するための法律が数多くありますが、貧困や家庭内紛争など、インドの子どもたちにとって厳しい状況が続いています。子どもたちは、子どもの貧困、児童婚、家庭内暴力、物乞い、強制労働、性的暴力、人身売買、オンライン搾取などの犠牲者であり、弱い立場にあります。

開発、保護、参加、余暇といった基本的な権利を奪われ、不運にも捨てられた子どもたちの多くは悲惨な生活を余儀なくされています。そんな中、私たちは、インドのウッタル・プラデーシュ州にある恵まれない子供たちのための施設、Fr. Agnel Balbhawanセンターに足を運びました。ベント・ネヴェス・ロドリゲス神父によって設立されたこの施設は、子供たちを支援し、確かな今と約束された未来を提供するための総合的な教育機関です。



カトリックの宗教指導者であるベント・ネヴェス・ロドリゲス神父は、1981年からアジア宗教者平和会議平和会議（レリジョンズ・フォー・ピース）インド委員会で活動しています。現在、当委員会の代表を務めています。

物腰が柔らかく、とても穏やかなベント神父は、世界宗教者平和会議インド委員会だけでなく、インドのニューデリー、ノイダ、ウッタル・プラデーシュ州グレーター・ノイダにある4つのアグネル教育機関と技術系専門学校でも精力的なリーダーシップを発揮しています。現在は、グレーターノイダにある貧しい子どもたちや弱い立場にある子どもたちのためのアグネル・バルババンセンター（Fr. Agnel Balbhawan）のディレクターも務めています。

ベント神父は、まさに宗教を超えて生きる人であり、これまで平和と地域社会の調和を促進することを目的とした諸宗教協力活動やイベントを開催してきました。



“私は年に3回以上、定期的に諸宗教間イベントを開催し、当センターの子どもたちに宗教協力や共同体の調和の重要性を理解させることに努めています。”

～ベント神父



バルババンセンターは、8エーカーの広大な敷地にあり、現在234人の孤児や極めて困難な状況の犠牲となった子供たちが生活しています。これらの子どもたちは、男女とも3歳～18歳の年齢層で、自活できるようになるまで保護されています。この施設では、男児よりも女児を多く受け入れています。それは、身寄りのない少女たちは、周囲の危険な環境の中でより被害を受けやすいからです。少女たちは、家事奴隷、児童婚、早期妊娠、家庭内暴力、性的搾取、人身売買を強いられやすいのです。

“子どもたちのほとんどは、両方または父親、母親のどちらかが貧しく子どもを育てる余裕がありません。子どもたちのほとんどは、困難な状況に直面している親の元で育っています。

これらの子どもたちは、近隣だけでなく、遠くインドの北東部からもやってくるのです。”～ベント神父



バルババンセンターは、子どもたちの基本的な権利の保護に配慮しています。この施設は、無料で寄宿、宿泊、教育、医療を提供することで、困難な状況にある子どもたちに安全で愛情に満ちた安心できる環境を提供しています。この環境は、子供たちの適切な成長と総合的な発達に非常に重要です。





また、このキャンパスには、約2,000人の生徒が通う一般の公立学校もあります。バルババンセンターの子どもたちは、この学校で近隣の一般家庭の子どもたちと一緒に勉強します。このような機会は、子どもたちに他の子どもたちとの平等感を与え、勉強だけでなく、文化プログラムやスポーツなどの屋外活動においても、子どもたちの総合的な成長に役立っています。また、学校内で他の子どもたちと交流することで、自信と自己肯定感を得ることができます。

“先日、アグネル・バルバワン・センターを訪問し、とても心が洗われるような、有意義な経験をさせていただきました。そこに滞在している子どもたちの幸せで明るい顔を見るのは、とても嬉しいことです。この施設は2つのセクションに分かれています。1つは、3歳から10歳の少年少女が生活するセクションです。



約100人の子どもたちが、11~12人の8つのグループに分かれ、各グループに1人の母親（寮母）が面倒を見ています。年上の子どもたちは、兄弟姉妹のように年下の子どもたちの面倒を見ています。子どもたちは、栄養価の高い食事、健康管理、愛情に満ちた雰囲気、そして身体と精神の適切な発達のための全方位的な福利厚生を受けることができます。”

～ ディーパリ・バノット博士



年長の子供たちは、隣棟にある男女別のホステルに入寮し、スーパーバイザーが世話をします。子どもたちは勉強だけでなく、音楽やスポーツも得意です。

“女子のサッカーチームが男子のサッカーチームよりも優れていることを知り、とても驚きました！”とディーパリ博士は続けて語っています。

子どもたちは学校を卒業するまでこのホステルに滞在します。学校を卒業すると、家族のもとに帰る子もいれば、進学や能力開発コースに進む子もいます。そのような生徒には、自立して生活できるようになるまで、ホステルの設備が提供されます。

2009年以降、バルババンセンターを卒業した多くの生徒が、銀行、接客業、病院、教育機関などで高いポジションに就いたり、自分でビジネスを始めたりしています。また、さまざまな事情で通常の学校教育を受けられなくなった子どもたちの中には、オープンスクーリングで学び、同時に他の専門職や職業訓練コースに進み、資格に応じた就職を果たしている人もいます。このように、バルババンセンターでは、子どもたちが自分の足で立てるようになるまで、一人ひとりに手を差し伸べるということを実践しています。

生活が落ち着いた後も子供たちはベント神父と定期的に連絡を取り合っており、彼らの師であるベント神父について語る言葉は、彼らの人生への貢献を物語っています。

“ベント神父は、私たちの未来とか過去とかではなく「今」の私たちに手を差し伸べ、「今」の私たちを作ってくれた人なのです”



アジア宗教者平和会議平和会議（レリジョンズ・フォー・ピース）インド委員会は、困難な状況にある子どもたちの福祉と保護のために、より多くのプロジェクトを立ち上げたいと考えています。

Dr. Deepali Bhanot

アジア宗教者平和会議平和会議（レリジョンズ・フォー・ピース）

インド委員会

女性ネットワーク議長